

	群馬大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	理工学部（第1年次:480 第3年次:30） 理工学部【夜間】（第1年次:30） 大学院理工学府（M:300 D:39）
沿革	大正4（1915）年 桐生高等染織学校創立 大正9（1920）年 桐生高等工業学校に改称 昭和19（1944）年 桐生工業専門学校に改称 昭和24（1949）年 新制群馬大学工学部設置 昭和39（1964）年 大学院工学研究科修士課程設置 平成元（1989）年 大学院工学研究科修士課程を工学研究科博士前期課程 ・後期課程に改組 平成25（2013）年 理工学部・大学院理工学府・理工学研究院設置
設置目的等	<p>大正4年、群馬大学工学部・工学研究科の母体の一つである桐生高等染織学校は、我が国の基幹産業である染織工業の中心地であった桐生において、産業振興を担う人材育成を目的として設置され、大正9年には桐生高等工業学校、更に昭和19年には桐生工業専門学校に改称された。</p> <p>昭和24年、新制国立大学の発足時には、群馬県における最高の教育及び研究の機関として、戦後の我が国の復興と工業立国のための基盤となる科学技術の興隆を担うことのできる技術者の育成及び研究の進展を目的に、桐生工業専門学校は、群馬大学工学部として承継された。</p> <p>昭和39年、工学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に広い視野に立って各専攻分野を研究し、高度な技術や精深なる研究能力を養うことを目的に、工学研究科が設置された。</p> <p>平成元年、科学技術の急速な発展と産業界の要請に応え、高い専門性と豊かな学識を備えた高度専門技術者及び研究者の育成を図ることを目的に、工学研究科修士課程は工学研究科博士前期課程・後期課程に改組された。</p> <p>平成19年、科学技術創造立国を担い産業界で活躍できる国際性を有する先端科学技術者及び研究者の育成を目的に、大学院部局化及び大学院・学部が改組された。</p> <p>平成25年、理学と工学を学際融合的に捉え、確かな基礎学力と広い</p>

	<p>学問分野にわたる課題解決能力を備えた人材の育成並びに新たな知の創出と我が国の産業興隆に資するイノベーションの創出を目的に、理工学部・理工学府・理工学研究院を設置した。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>群馬大学においては、知の探求、伝承、実証の拠点として、次世代を担う豊かな教養と高度な専門性を持った人材を育成すること、先端的かつ世界水準の学術研究を推進すること、そして、地域社会から世界にまで開かれた大学として社会に貢献することを目指し、教育、研究、社会貢献に取り組み、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 理学と工学を学際融合的に捉え、俯瞰的に問題を把握し解決できる能力や、知識を総合して実践的に研究・開発能力を発揮できる人材の育成を目指す教育を展開し、社会の革新・成長を牽引するリーダーとして活躍する確かな実践力を備えた高度な技術者育成の役割の充実並びに「統合知」に裏打ちされた独創性と創造性を備えた高度な研究能力を有する先導的な人材育成の役割を果たす。 ○ 教養教育から専門教育まで連動した英語教育、「高大産連携による工学系フロンティアリーダー育成プログラム」、大学院実践実習教育や、ユビキタスな元素を基軸とした機能材料の開発などの特色ある教育を企画・実施してきた実績を生かし、国際的水準を踏まえた教育改革を進め、理学と工学を学際的・融合的に捉え、確かな基礎学力と広い学問分野にわたる課題解決能力を備えグローバルに活躍できる理工系人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。 ○ 化学、情報工学、機械工学、電子工学、土木工学、反応工学分野などの高い研究実績を生かし、理工学の諸分野の研究を推進する。特に「医理工融合」、「低炭素材料・エネルギー」、「元素科学」、「文理融合防災」を重点的に取り組む分野として研究を展開する。また、炭素やケイ素等を用いる次世代要素技術や次世代材料の発明・開発実績を生かし、新たな産業創出に貢献する研究開発を推進する。 ○ 教員一人当たりの特許取得数の高い実績を生かし、今後とも我が国の産業を支える実践的な研究等の取組を一層推進する。また、アナログ技術分野での研究・教育実績やポストドクターのキャリア開発などの取組実績を生かし、地方自治体や産業界との様々な連携活

	<p>動により、地域の課題解決や産業振興に貢献する。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 大学院への社会人受け入れ促進や技術者向け講座等の積極的展開などを通じ、産業界の高度化・活性化に資する。○ ケイ素科学に関する国際協力実績や、「エレメントイノベーションプロジェクト」を核とした国際的な取組実績を生かし、ユビキタスな元素を基軸とした機能材料の開発と国際的に活躍できる人材の育成を通じて、国際貢献を推進する。○ 防災研究と防災教育の取組実績を生かし、理工学と人文社会学を融合させた総合防災学に関する学理を探究するとともに、地域の特性に応じた実践的な防災教育を推進する。
--	--